

# 八郎湖で何をするか ～八郎湖の課題と対策～

## － 八郎湖流域管理研究会第3回シンポジウムワークショップ報告 －

秋田県立大学 システム科学技術学部

金澤 伸浩

### 1. はじめに

秋田県立大学の八郎湖流域管理研究会では、八郎湖流域に関心のある方々を対象にしたシンポジウムを2012年と2014年に2回開催してきた。それ以前にも秋田県立大学学長プロジェクトの研究発表会などとして同様な会を開催し、八郎湖流域に関する知見や取り組みの共有が図られてきた。これらのシンポジウムは、基本的に講演と討論がセットになっており、講演では研究者や流域で活動されている方々の貴重なデータや取り組みをまとめて知ることができた。また、討論はパネルディスカッション形式で行われ、選ばれたパネリスト（討論者）が要旨を話した後、コーディネーター（司会者）の進行により意見を交わすという形式で、八郎湖流域の現状や課題を共有し、今後の取り組みなどを整理する場となっていた。

しかし、会場に訪れた多くの人は基本的に話を聴くのみで、自分の意見を述べる機会は少なかった。すなわち、各演者の講演の直後やパネルディスカッションの後半に、挙手をして司会者の指名を得た上でマイクを握り、進行中の話に関連する質問や意見を短時間で発する機会があったが、時間の制約で話が終わらなかつたり、話題に合わない話ができなかつたりしたこともあった。また公共の場であることから、それぞれが立場をわきまえた慎重な話になりがちで、質問と回答が噛み合わない様子も見られた。そのため、これらのシンポジウムで参加者の意見の共有が十分にできていたかについては課題があるように感じられた。日頃から八郎湖流域に関心を持ち、八郎湖を改善す

るためにたくさんの方々のことを考えられている方々が参加されているにもかかわらず、シンポジウムはその方々の意見を吸収して新たな対策に結びつける仕掛けが不足しているように思われたのである。

そこで、第3回シンポジウムを開催するにあたり、従来型の討論会は止めて、八郎湖流域の利害関係者が集まって率直な意見を出し合い、できるならば関係者の協働に結びつくような話し合いができるという意見を研究会で共有し、参加型のワークショップを開催することになった。テーマは、「八郎湖で何をするか ～八郎湖の課題と対策～」とした。

### 2. 方法

#### 1) 場の設定

シンポジウムの多くは秋田市内で行ってきたが、目的を踏まえて実際に八郎湖流域に関わりのある方々に集まって頂きやすいこと、机を囲んだグループワークが可能なことを条件に会場を探し、今回は潟上市昭和公民館で行うこととした。シンポジウムの前半は、片野登氏から「八郎湖に流入する汚濁負荷量」、尾崎保夫氏から「植物や生態系を利用した水質改善のこころみ」、大学サークルのパチカンから「アサザ基金への研修を終えて」と題した講演が行われた。その後、今回新たな試みとなるワークショップを行った。2時間を予定していたが、講演が盛り上がったため、実際は1時間45分となった。参加者は27名で、構成は、NPOや企業など流域の市民・団体が12名、行政（潟

上市)が3名, 教員学生が12名であった。

## 2) プログラム

ワークショップの構成は, ①よろずぐな (よろしくをお願いします), ②かだれ (仲間に入ろう), ③なじよす (何をしよう), ④おせでけれ (教えてください) とした。

①は, いわゆるアイスブレイク (打ち解け合う活動) で, お互いに知らない人が多い中で円滑に話し合いを進めるために, ゲームなどを行って打ち解けた雰囲気醸成するためのアクティビティ (活動) である。二人一組で自己紹介しながらじゃんけんをしたり, 輪になって言葉や手たたきを順送りするゲームなどを行った。

②は, ワールドカフェ (香取一昭, 大川恒, 2009) という方法で八郎湖に関する意見を出しあったあと, 意見の似た人が集まるアクティビティ (マグネットテーブル) を行った。ワールドカフェは, 1995年にJuanita BrownとDavid Isaacsが提唱した方法で, 会議室よりも喫茶店のような空間の方がオープンな対話が可能になるという発想から生まれた。まず, 1グループ5~6人が模造紙を置いたテーブルを囲んで座り, 「八郎湖はどんなところか?」をテーマに思いついたことを書き出す作業をしてもらった。話し合いは1回5分とし, 1回目の話し合い後に一人を残して他の人は別のグループに移動して2回目の話し合いを5分行った。その後, 元のテーブルに戻り, これまでに出てきた話を踏まえて「八郎湖を良くするために必要なことは?」というテーマで5分間の話し合いをしてもらった。その後, 話し合いから出た必要なことの中から各自がやってみたいことを一つ選び, A4用紙に大きく書いて, その紙を持って他の人と見比べ話をしながら, 意見が似ている人同士で5~6人のグループを作った。

③では, ブレーンストーミングを行った。まず②で集まったグループ内で一つの共通テーマを「どうしたら, ○○○できるだろうか?」という形式で決めて頂いた。次に模造紙にテーマを達成するためのアイデアを出し合って, 模造紙に箇条書きした。出されたアイデアから良いと思うものを一人5票投じて, 上位五つのアイデアを選んだ。さらに, その五つのアイデアを実現するために何をすれば良いかを10分間話し合ってもらった。

④では, 各グループで話し合われた内容をそれぞれ1分ずつで発表してもらい, 意見交換を行いながら内容を共有した。

## 3. 結果

### 1) よろずぐな (アイスブレイク)

30分間を予定していたが, 参加者が笑顔でゲームに参加し, 打ち解けた雰囲気醸成できたと判断されたことから15分程度で止めにした。このようなワークが初めての参加者も少なくなかったが, 全員が協力的に参加してくださったことで, 短時間でも必要十分な効果が得られたと思われる。グループワークを開始する前に, 以下四つのグラドルール (全体を通した約束ごと) を示した。①時間厳守, ②批判しない (他人の意見を尊重する, 論破する場ではない), ③傾聴 (自分ばかり話さないよう注意しながら話をよく聴く), ④意見の乗り換え便乗歓迎 (他人の話を聴いて新たな発想が生まれることを期待する)。

### 2) かだれ (ワールドカフェ, マグネットテーブル)

八郎湖はどんなところか, というテーマで話し合った (図1)。水環境, 生物資源, 地理的特徴, 歴史文化, 思い出, 産業観光に関する意見が出ていた。主なものを表1にまとめた。八郎湖が持つ

表1 参加者の意見（八郎湖はどんなところか）

水環境	生物資源	地理的特徴
アオコが出る	いろいろな渡り鳥が来る	山手線の内回りの面積
農業用水として使っている	獲れる魚の種類が豊富	まっ平ら
朝と晩はキレイ！	水草が少ない	近寄れない
くさい！！	ブラックバスの釣り場	水位が一定
泳ぎたくはない	ワカサギ、シラウオ	日本地図ですぐわかる
歴史文化	以前の思い出	産業観光
八郎太郎の伝説	昔はキレイ	佃煮
潟船 双胴船	思い出がたくさん	ワカサギ釣り
船大工が各舟留にいた	魚がたくさんいた	菜の花ロード
環境教育がさかん	貝がおいしかった	有名(キムタクがきた?)
氷割るワカサギ漁の漁法	遊び場だった	

風景や生態系が人と深く関わり合ってきたこと、干拓以前は現在より美しい環境であったことなどが共有されていた。このあと、八郎湖をよくするために必要なことをグループで話し合った後、各自で意見を一つ決め、似た意見の人とグループを形成し直した。時間がかかることも予想されたが、5分程度で五つのグループができた。

- (1) どうしたら八郎湖を全国区にできるだろうか。
- (2) どうしたら八郎湖を楽しめるだろうか。
- (3) どうしたら八郎湖の日（8月6日）を設けられるだろうか。
- (4) どうしたら水質浄化できるだろうか。
- (5) どうしたら環境保全の事業を続けられるだろうか。

### 3) なじよす（ブレインストーミング）

各グループで、八郎湖を改善するためのテーマを一つ、「どうしたら〇〇〇できるだろうか」という形で決めた。各グループで決定されたテーマは次の五つであった。

このテーマに対するアイデアをグループの全員が思いつくままに挙げ、模造紙に箇条書きに列記した。その後、良いと思うアイデアに一人が5票を持って票を投じ、より良いアイデアの絞り込みを行った（図2）。アイデアのリストと票数を図



図1 ワールドカフェの様子



図2 アクションプランの話し合いの様子

3に示した。次に、絞り込んだアイデアを実現するための方法を話し合い、グランドルールに沿った発展的な議論が交わされていた。

#### 4) おせでけれ (発表)

各グループで発表する代表者を一人選出し、話し合われた内容を参加者全員に対して発表した。他のグループで出された意見に賛同したり、新たなアイデアが出たりと、話し合いの結果を共有することで一般化が進み、具体的なアクションプランの立案に近づけることができた。例えば、八郎湖の日を設定し、ブラックバスを食べる黒鍋や佃煮作り教室、釣り大会など食を絡めたイベントを開催したり、農林水産業の活性化を目指して、佃煮などの製品のブランド化や有名人を使ったマーケティングを行ったりと、各グループの話題を融合して、実現可能かつ効果が期待できそうなアイデアが出てきた。

以上のように、2時間弱の短い時間ではあったが、今後の方向性が見える素晴らしい話し合いができたと感じられた。これまでのシンポジウムで壇上に立っていた研究者と八郎湖に深く関わりながらも椅子に座って聴講するだけの市民の方々が、このたびフラットな立場で自由に話し合ったことで、これまで知らなかったことが共有できたり、重要と思われたことが些細なことになったり、小さなアイデアが素晴らしいものになったりと、考えの整理が深まったように見受けられた。今回は、アイデアをすぐに実行に移すまでの話し合いは出来なかったが、出されたアイデアを今後一つでも実現する方向で参加者が協力していくことが期待される。

#### 4. おわりに

八郎湖流域の改善を進めるきっかけとするた

め、八郎湖流域管理研究会主催の第3回シンポジウムでは、八郎湖で何をするか～八郎湖の課題と対策～というテーマで、参加型のグループワークを行うワークショップを開催した。流域管理を行う上での課題や方向性については、八郎湖流域管理研究会の佐藤了(2013)が次のような指摘した。すなわち、和田英太郎ら(2009)が示した流域管理の課題には利害関係者間の問題認識のズレがあり、それを埋める具体的な手段として挙げられる①指標づくり、②モデル・GIS・シナリオ、③住民からの聞き取り調査、④アンケート、⑤ワークショップ、⑥アクション・リサーチ、⑦PAPD(参加型合意形成手法)などの中で、必要でありながら実施されてこなかったアプローチが、アクション・リサーチ等であること。そしてアクション・リサーチにおいては、実践者と研究者、その他の利害関係者を含めた『場』をどのように作るかという点を課題として挙げている。八郎湖流域の改善は、一つの対策で成し遂げられるものではなく、まして八郎湖の管理者である秋田県だけでできるものでもない。そもそも、八郎湖の現状が改善すべき状態なのか、何を改善するのか、どこまで改善することが望ましいのか、それら全てに利害関係者間の統一的な認識はない。これまで長年にわたり八郎湖流域の水質や物質収支などを科学的に示す努力が続けられてきた。これは非常に重要であり、八郎湖流域に関してはまだまだデータの蓄積を進める余地はあるが、このアプローチだけでは八郎湖流域の将来は変えられない。流域の利害関係者が八郎湖流域を将来どのようにしたいのかという目標とアクションプランを話し合い、合意を形成していくことが必須である。

今回行ったワークショップは、まさに流域管理に必要な実践者と研究者とその他の利害関係者が話し合い、これからの行動を研究(アクション・

リサーチ) するフラットな『場』と言える。今後はさらに多くの利害関係者に話し合いに参加して頂き、八郎湖流域を改善するための対策を立案し、実行に移していくことが望まれる。特に八郎湖流域の改善対策を実践する中心的役割を担う秋田県をはじめとした行政の方々がこのようなフラットな形で議論に参加して頂くことで、より良いアクションプランの企画と実施が実現するものと思われる。

## 引用文献

Juanita Brown and David Isaacs "Building Corporations as Communities: Merging the Best of Two Worlds." In K. Gozdz (ed.) , *Community Building: Renewing Spirit and Learning in Business*. San Francisco: New Leaders Press, 1995, 64-83.

香取一昭, 大川恒 (2009) 『ワールドカフェをやろう!』, 日本経済新聞出版社.

佐藤了 (2013) 八郎湖の流域管理を考える, 八郎湖流域管理研究2, 1-10.

和田英太郎監修 (2009) 『流域管理学－流域ガバナンスの理論と実践』, 京都大学学術出版会.

テーマ：どうしたら八郎湖ブランドを全国区にできるだろうか

案	票数
1 マスコミにアピール	
2 県内人が楽しめるイベント	2
3 有名酒造とのコラボ	3
4 地元出身有名人を使う	5
5 八郎太郎	1
6 農業のイメージアップ	1
7 産学金融連携	2
8 マーケティング	1
9 水鳥→観光化	2
10 ブランドイメージの統一	5
11 企業主導で統一	2

テーマ：どうしたら水質浄化できるだろうか

案	票数
1 まず水質調査をする	1
2 汚れはどこから来ているのか確かめる	1
3 水草を増やす	2
4 シジミ貝を増やす	2
5 木炭を活用する	2
6 もみ殻活性炭を活用する	
7 湖の底に空気を送る(ヘドロを減らす)	4
8 ヨシを刈り活用する	1
9 植生のために岸に干潟を作る(傾斜を作る)	3
10 農業排水の汚れを減らす	3
11 生活排水の汚れを減らす	1
12 洗剤を減らす	
13 八郎湖研究所	1
14 八郎湖の魚貝を食べる	2
15 ソウギョ(水草を食べる魚)を減らす	
16 浄化活動参加者を増やす	2
17 水草を植える	
18 見学者を集める(→観光へ)	

テーマ：どうしたら八郎湖の日(8月6日)を設けられるだろうか

案	票数
1 釣り大会(ブラックバス)	2
2 マラソン大会&出店	3
3 八郎伝説ツアー	3
4 たらいこぎ競争	
5 いかだこぎ競争	
6 佃煮作り教室(草木谷のおにぎりをまじえて)	5
7 子供用舟(カヌー)こぎ大会	2
8 子供用手造り(竹とんぼ、草笛)体験	3
9 若者の出会いの場(八郎太郎・たつこ姫)	
10 コンサート	
11 花火	
12 出店	1
13 語りべの集い	
14 写生大会	
15 写真コンテスト	1
16 打たせ舟復元	1
17 ワカサギ釣り	
18 子供の水辺	1
19 魚を食べる会(ブラックバスの唐揚げ)	3
20 菜の花ロードサイクリング大会	
21 夕陽を見る会	

テーマ：どうしたら環境保全の事業を続けられるだろうか

案	票数
1 農林業・水産が儲かる	5
2 ゴミ拾い	1
3 八郎湖に行く	1
4 船で秋田に行く	
5 船を持ち生活の一部にする	3
6 魚のおいしさを広める	1
7 子供の興味を集める	5
8 居酒屋に八郎湖産のもの(名物料理)を仕入れ	4
9 高齢者を誘う	
10 昔の八郎湖の話を高齢者から子供に話す	1
11 魅力あるイベントを考える	1
12 ブラックバスを肥料に	1
13 アオコを肥料に	3
14 八郎湖で遊ぶ	
15 気軽に参加できる事業を考える	4
16 大学生が小学校に行く(必修に)	
17 八郎湖を話題に(八郎太郎)	
18 地元めぐり	
19 商品開発	
20 給食に地元のものを(うつわも)	
21 地産地消(ブラックバス弁当)	
22 八郎湖産、地元産のものを使った料理対決	
23 祭りの企画	

テーマ：どうしたら八郎湖を楽しめるだろうか

案	票数
1 バス釣り大会	3
2 遊び場を作る	1
3 舟で通る	
4 漕船ボートレース	3
5 フォトコンテスト	
6 八郎湖マラソン	3
7 八郎湖ウォーキング	
8 八郎湖トライアスロン	
9 八郎湖湖上コンサート	
10 岸辺に桜(公園)	1
11 環状道路の整備	
12 環状鉄道(レールバイク?)	2
13 水上交通	1
14 スケート	
15 ワカサギ釣り大会	1
16 シジミとり競争	
17 カラス貝養殖	
18 酒飲み大会	6
19 氷上キャンプ	1
20 カヌー大会	
21 氷上サバイバル	1
22 氷上花火大会	
23 ブラックバス鍋「黒鍋」開発	6
24 料理コンテスト	1

図3 出された八郎湖改善のアイデアと支持投票数